

## 生涯学習概論

(解答はすべて解答用紙に記入し、この問題用紙に記入しないこと)

- 1 2008(平成20)年6月に改正された、社会教育法第五条には、「社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して学校、社会教育施設その他地域において行う教育活動その他の活動の機会」という文言があります。ここで言われる「社会教育における学習の機会」(A)、「学習の成果を活用して行う学校、社会教育施設その他地域において行われる教育活動その他の活動の機会」(B)とは、それぞれどういうことを指すのか、より具体的な形で述べなさい。(20点)
- 2 近年の情報化の進展やICT(情報通信技術)の発達によって、人々の生涯学習にはさまざまな変化がみられますが、それに伴って生涯学習を行う上での新たな課題や新たに必要とされていることにはどのようなことがありますか。「現代的課題の学習」、または「職業能力・知識・技術の向上にかかわる学習」のいずれかを例にして述べなさい。(20点)
- 3 下記の小学校における「キャリア教育」の取組、成果及び課題についての記述を読み、まず、(1)「キャリア教育」について説明し、その上で、(2)この「キャリア教育」実践に対しての改善策や今後の発展性について、学芸員の立場から述べなさい。(20点)

<小学校における取組、成果及び課題> — 総合的な学習の時間「平山郁夫美術館 鑑賞と模写活動」尾道市立南小学校全学年の取組

① ねらい

- ・平山郁夫画伯の生き方を知り、今の自分の生き方を考えることができる。  
【将来設計能力】(計画実行能力)
- ・平山郁夫画伯の幼少から現在までの絵を鑑賞し、絵の心に触れ、自分の好きな絵を選ぶことができる。【意思決定能力】(選択能力)
- ・ねばり強く模写活動することができる。【意思決定能力】(課題解決能力)
- ・作者はどのような思いで描いたか、自分はどのような思いで描いたか等、自分が思ったことが発表でき、友だちのよいところを認め合うことができる。  
【人間関係形成能力】(自他の理解能力)
- ・知りたいことを尋ねたり、聞かれたことに的確に応えたり、場に合ったあいさつを

することができる。【人間関係形成能力】（コミュニケーション能力）

② 内容・方法

地域が生んだ世界的に有名な日本画家である平山郁夫画伯の絵画を美術館で鑑賞させ、作者の思いを推察させる。また、展示されている作品の中から模写する絵を見つけさせ、模写活動を通して、自分の思いを表現させる。

③ 成果

この体験的な学習活動を通して、児童の身近に存在する働く人への興味・関心が高まり、仕事や働くことに対する意識が高まった。そして、その意識は将来の自分自身の中学生像へ、あるいは家庭や学校からその周辺地域、さらに広い地域社会へと時間的・空間的な広がりを持ってきている。

○ 児童の感想文

「平山郁夫美術館 鑑賞と模写活動」

平山美じゅつ館で、も写できてよかったです。はじめに、どの絵がいいかまよいました。いくおさんは、小さい時から「はー」というような絵をかいていました。すごいです。

わたしは、三まい絵をも写したけど、最後にかいた仏教伝来が一番好きです。森と馬がとてもいいし、木もうすい緑、青系の緑とか赤みがかかったりしていて、平山さんはくふうしてかいているんだなと思いました。

④ 今後の課題

児童一人一人が描いた絵に満足できるよう、感性豊かな表現力を育成するための指導方法、評価方法を工夫する。今回の体験的な学習活動を、一度きりに終わらせず継続的に実施するとともに、模写活動の変容を記録として残しておく。そして、模写活動そのものよりも、自分の生き方を考えさせる取組に重点を置いて指導する。

（『教育委員会月報（2006年6月号）』より）

4 次の事項の中から**3つを選び**、80字以内で簡潔に説明しなさい。（各5点）

（4つ解答した場合は無効とする。）

- |              |               |
|--------------|---------------|
| (1) 通俗教育     | (2) 要求課題と必要課題 |
| (3) 派遣社会教育主事 | (4) JUNTO     |

5 ユネスコの教育開発国際委員会がまとめた報告書“Learning to be”（邦訳『未来の学習』）についての記述として妥当なものには○を、妥当でないものには×をそれぞれつけなさい。

（各2点）

- (1) 1970年代の初めに出された報告書で、委員長の名前をとって、「フォール報告書」ともいわれている。ロバート・ハッチンスの考え方が影響しているといわれている。

- (2) 1990年代の中頃に出された報告書で、「知ることを学ぶ」(learning to know)、「為すことを学ぶ」(learning to do)などの生涯を通じた学習の4つの柱を主張した。
- (3) 生涯教育は、国際的な差別構造の変革をめざすものであり、知識をため込む伝統的な「銀行型」の教育より問題解決を中心とした「問題提起型」の教育が重要と主張した。
- (4) 生涯学習を続けることで、分断されたパーソナリティを修復し、人間としての身体的・情緒的・倫理的な統合された「完全な人間」へと成熟していくことが重要と主張した。
- (5) 教育の機会均等を促進する観点から、従来青少年に独占されてきた学校教育をすべての者に平等にあたえ、教育と労働とを循環する「リカレント教育」が重要と主張した。

6 次の文章の①～⑤の( )に最も適する語句を下のア～ソから選びなさい。なお、文章中の同じ数字には同じ語句が入るものとする。(各3点)

生涯学習の方法・形態には、複数の人が特定の場所に集まって行う( ① )学習と、一人で何らかの目的をもって行う( ② )学習がある。このうち、( ① )学習は学習者相互の関係性のちがいによって、( ③ )学習と( ④ )学習に分けられる。( ③ )学習は、学級・講座・教室など学習者相互による話し合いや学び合いが可能な学習を言い、( ④ )学習は、講演会や展覧会など講師などからの一方向的な働きかけとなり学習者相互の関係が希薄となるような学習を言う。一方、( ② )学習は本や新聞、CD、DVD、テレビ、ラジオなどのメディアを利用して行う学習と、( ⑤ )を利用した学習に分けられる。

ア 個人	イ 集団	ウ 施設	エ 全体	オ 自宅
カ 遠隔	キ 公開	ク 一斉	ケ サークル	コ 集会
サ 集合	シ 個別	ス グループ	セ 職場	
ソ インターネット				